



非核平和都市宣言について

問 「山武市非核平和都市宣言」の経緯およびその意義について伺います。

答 市長 旧4町村の宣言がありました。町村合併に伴い失効してしまつたため、平成19年7月、その意思を引き継ぐ形として改めて宣言したものです。

意義としては、唯一の被爆国として、核兵器の恐ろしさを訴え、世界の恒久平和を祈念するとともに、非核三原則の堅持と核兵器の速やかな廃絶を強く訴えることにあります。

問 今後の取り組みを伺います。

答 総務部長 従来の啓発活動のほか、核兵器の恐ろしさや核廃絶に向けた取り組みについて、市のホームページや広報紙等を活用し、発信していきます。



「103万円の壁」撤廃の影響

問 令和7年度税制改正による、住民税の減収見込額を伺います。

答 市民部長 個人住民税に対しては、令和8年度課税分から適用されるもので、給与所得控除や特定親族特別控除等の今回の税制改正により、地方税である個人住民税の本市への影響を試算したところ、最大で3400万円程度の税収減を見込んでいます。

飼い主のいない猫対策

問 市の対策を伺います。

答 建設環境部長 広報紙やSNSなどを通じ、猫は屋内で飼うことやむを得ず飼えなくなったときは、新しい飼い主を探すこと、愛護動物を捨てたり、傷つけたりすることは犯罪であること等をお知らせしています。

問 住民やボランティア団体と協働して、飼い主のいない猫の対策に取り組む考えはあるか伺います。

答 建設環境部長 地域猫活動を支援するための登録団体制度や、それに伴う、不妊・去勢手術費用の助成制度などの事業は行っていないです。

今後は、地域猫活動に関する助成制度を導入している他自治体の事例を調査するとともに、本市での現状を踏まえながら、補助制度の必要性を判断していきます。



熱中症対策

問 気候変動により深刻化する熱中症問題へのさらなる対策を伺います。

答 保健福祉部長 市民への熱中症の理解と予防を促進するため、市内事業所や保健推進員を対象に健康教育を実施するほか、各種保健事業において啓発を行っていきます。

問 他自治体の小中学校では、熱中症対策として、冷水機を導入している事例があります。

部活動等において、重たい水筒を持参することなく、学校で水筒に冷水を補充できる等のメリットがあると考えますが、市の見解を伺います。

答 教育長 学校では、定期的な飲用水の検査を実施し、熱中症対策ガイドラインに則り、常温ですが、小まめな水分補給ができるようにしています。

冷水で体を冷やすことの重要性を理解したうえで、製氷機や冷水機の活用等を含めて研究していきます。

5歳児健診普及による支援強化

問 5歳児健診は、発達障害の診断や生活指導ができる専門家による実施が求められる中、本市が位置する山武長生夷隅二次医療圏は、小児科医師の数が極めて少ないという現状について、市長の見解を伺います。

答 市長 専門医等の確保が困難な状況にありますが、保護者が一人で悩みを抱え込むことのないよう、相談体制の継続と支援の実施に努めます。

また市では、子ども・子育てに関する相談支援機能を一体化する「こども家庭センター」の設置に向けて取り組みとともに、千葉県へも医師の確保をしつかりと要望していきます。

誰もが安心して搾乳できる環境づくり

問 搾乳が必要な方が安心して気軽に授乳室を利用できるよう「搾乳できます」ステッカーの掲示を提案しますが、見解を伺います。

答 保健福祉部長 「山武市赤ちゃんの駅」登録施設のうち授乳室として登録のある6施設に対し、ステッカーを掲示するほか、ホームページやSNS等も活用し、搾乳に対する理解醸成を図っていきます。

